

三菱自動車工業株式会社

証券コード：7211

# 株主通信

平成29年度(2017年度)

上半期のご報告

2017年4月1日～2017年9月30日

 **MITSUBISHI MOTORS**

## CEOからのごあいさつ



利益ある持続的成長への基盤づくりに  
全社を挙げて取り組んでまいります。

取締役(代表取締役)CEO

益子 修

当社は、2017年度から2019年度までの3年間を対象に中期経営計画「DRIVE FOR GROWTH」を策定しました。

本計画では次の3つの課題に重点を置き、利益ある持続的成長への基盤づくりを目指します。

1つ目が、燃費不正問題で傷ついた信頼の回復です。業績の回復だけでなく、内部統制・ガバナンス体制の抜本的改革と強化に取り組み、お客様や社会からの信頼を早期に取り戻すべく、不断の努力を続けてまいります。

2つ目が、業績をV字回復軌道に乗せることです。業績の一時的な回復ではなく、事業基盤の整備に向けた開発や投資など来年、再来年と持続的に業績を上げていける基盤づくりを目指します。

3つ目が、新型車を成功させることです。『エクスパンダー』や『エクリプス クロス』などの新型車を確実に成功させ、ブランドの向上と規模の成長に繋げていきます。

自動車業界は過去にない大きな変化の中にあります。その環境変化に適応し、今後も社会から存在を求められる企業であるために、自ら変革し続けてまいります。

## 新たなブランドメッセージ“Drive your Ambition”の策定

当社は、10月の第45回東京モーターショー2017において、10年ぶりに新しいブランドメッセージ“Drive your Ambition”をお披露目させていただき、あわせてコーポレートマークとコミュニケーションマークを刷新しました。

今回のブランドメッセージには、「大きな志を持つことで生まれる、独創的で存在感のある商品・サービスを通じて、世界中のお客様とともに成長していきたい」という、三菱自動車の新たな決意を込めています。



第45回東京モーターショー2017で世界初披露した『MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT』



**MITSUBISHI  
MOTORS**

**Drive your Ambition**

新コミュニケーションマーク

同ショーで世界初披露させていただいたコンセプトカー『MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT』は、当社の新しいブランドメッセージを体現した車となっています。

当社は、これからも強みであるSUVや電動化技術にさらに磨きを掛け、AI技術やコネクティッドカー技術など様々な技術と融合させ、クルマの新たな価値を生み出していきたいと考えています。

# 中期経営計画「DRIVE FOR GROWTH」発表

当社は2017年10月、将来への基礎を固めるための中期経営計画「DRIVE FOR GROWTH」を発表しました。本計画の下で当社は、持続的成長への基盤づくりを進めながら商品ラインナップの刷新と重要市場での成長を図ってまいります。

## 中期経営計画の位置付け

2017年度から2019年度の3年間で、しっかりとした基礎づくりを行い、大きな環境変化の中にあっても競争力を持ち続けられるようにすることが狙いです。ルノー・日産・三菱アライアンスのシナジー効果が本格化する次の3年間に向け、4つの目標(KPI)実現に向けて全社を挙げて取り組んでまいります。

## 全体フレームワーク

### **DRIVE FOR GROWTH** 2017-2019年度

K P I	2019年度 小売台数:130万台 (2016年度比+40%)	2019年度 売上高:2兆5,000億円 (2016年度比+30%)	2019年度 営業利益率:6%以上	2017年度-2019年度 フリーキャッシュフローの 黒字化	
	戦略的 施策	商品の刷新	中核市場への注力により、 売上成長を実現	コスト最適化	
	基 盤 整 備	持続的成長のための体制づくり			
		長期的戦略に基づくアライアンスの活用			

## 計画達成に向けた取り組み

「商品の刷新」、「中核市場への注力」、「コスト最適化」の3つの戦略的施策により、4つのKPIを実現していきます。

まず、「商品の刷新」における取り組みとしては、2017年に販売を開始した『エクスペンダー』、『エクリプス クロス』を含む全11車種の投入を計画しています。また、当社が得意とするSUV\*・ピックアップトラックの販売増に取り組み、2019年度には主力5車種での販売比率を70%まで引き上げます。

次に「中核市場への注力」では、当社が強いポジションを持ち、さらなる成長を見込むアセアンおよびオセアニアのほか、世界で1位、2位の市場規模を持つ中国、米国に注力していきます。これらの地域を中心に着実な台数成長を図っていきます。

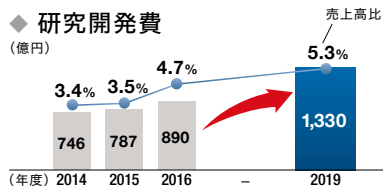
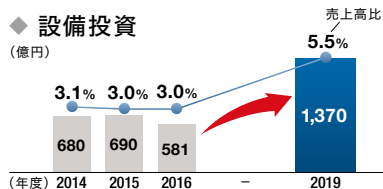
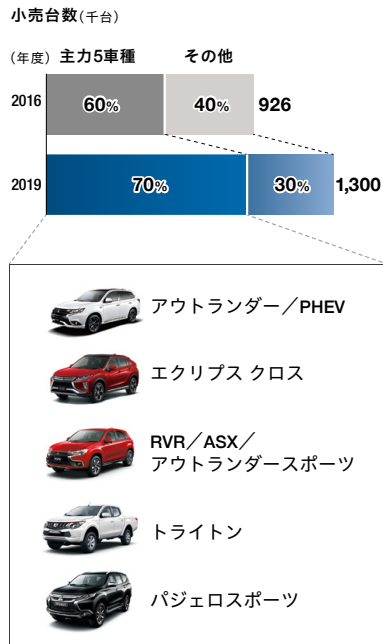
これらに加え、アライアンスを活用しながら、「コスト最適化」にも取り組んでいきます。

※SUV: Sport Utility Vehicle (スポーツ多目的車)

## 積極的な成長投資

将来成長を支える基盤づくりのため、積極的な成長投資を加速させていきます。具体的には、本中計の最終年度である2019年度には設備投資を1,370億円(売上高比5.5%)、研究開発費を1,330億円(売上高比5.3%)まで増額させます。積極的な投資により、設備投資および研究開発費の総額は3年間で6,000億円以上となる見込みです。これにより、規模の成長を支える開発・生産の体制を整備していきます。

### グローバルモデル(5車種)の販売比率向上



# 決算概況

## 2017年度上半期の振り返り

2017年度上半期の売上高は前年同期比10%増の9,477億円となりました。

営業利益は前年同期の316億円の赤字から442億円の黒字に転換し、営業利益率は4.7%となりました。燃費不正問題の影響を受けて前年同期は2,196億円の赤字だった親会社株主に帰属する当期純利益(以下、当期純利益)も、484億円の黒字となりました。

2017年度上半期でのグローバル販売台数(小売)は498千台となり、前年同期比14%増となりました。

日本では、軽自動車『eKワゴン』、『eKスペース』の復調と、『デリカD:5』を中心に「ACTIVE GEAR」

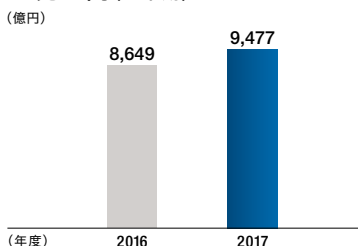
シリーズが好評なことから、前年同期比48%増の43千台まで着実に回復してきています。

中国では、2016年に現地生産化した『アウトランダー』が好調を維持しており、前年同期比87%増の58千台と成長を力強く牽引しています。

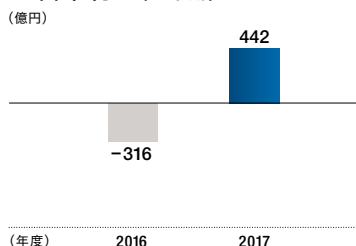
アセアンでは、タイを中心に『トライトン』や『パジェロスポーツ』が順調な伸びを見せ、前年同期比15%増の113千台となりました。

この他、当社の主力市場の一つである豪州・NZ、需要が回復基調にあるロシアでも、順調に販売を伸ばしました。

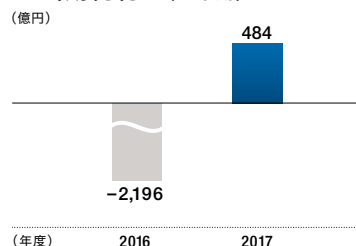
◆ 売上高(上半期)



◆ 営業利益(上半期)



◆ 当期純利益(上半期)



※当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約・保証するものではありません。

## 2017年度見通し

2017年度通期業績見通しについては、上半期までの業績は堅調に推移しましたが、期初に発表しました公表数値から変更はありません。

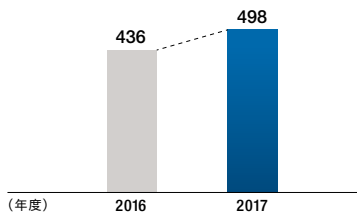
今後も市場の変化をいち早く捉え、適切に対応し、確実な通期計画の達成に向けて取り組んでまいります。

(億円)	通期(4月~3月)	
	2016年度 (実績)	2017年度 (見通し)
売上高	19,066	<b>20,000</b>
営業利益 (営業利益率)	51 (0.3%)	<b>700 (3.5%)</b>
経常利益	89	<b>790</b>
当期純利益	-1,985	<b>680</b>
販売台数(千台)	926	<b>1,029</b>

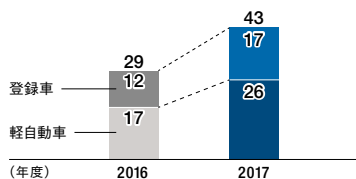
## 販売台数(上半期)

(千台)

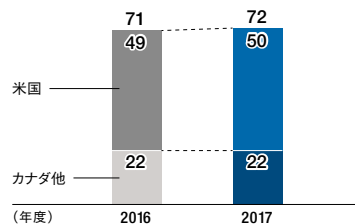
### ◆ 合計



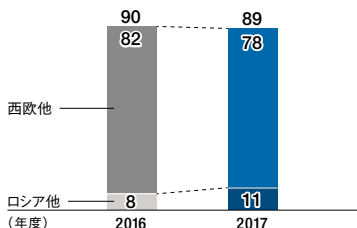
### ◆ 日本



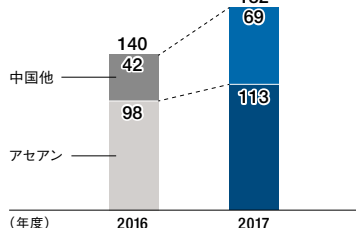
### ◆ 北米



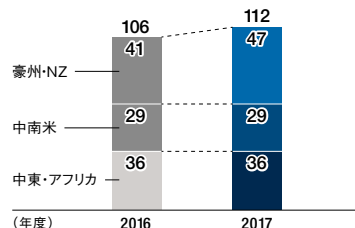
### ◆ 欧州



### ◆ アジア



### ◆ その他



※2017年度よりプエルトリコは「その他」から「北米」に地域区分を変更。上記グラフの2016年度実績も同様に変更しています。

# INFORMATION

第45回東京  
モーターショー2017

コンセプトカー『MITSUBISHI e-EVOLUTION  
CONCEPT』を世界初披露

当社は、第45回東京モーターショー2017（2017年10月25日～11月5日）において、これからの三菱自動車のクルマづくりの方向性を示唆するコンセプトカー『MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT』を世界初披露しました。



『MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT』



同車は、クロスオーバーSUVタイプの新世代ハイパフォーマンスEVで、フロントに1機のモーターと、リアに新開発の「デュアルモーターAYC※」を搭載したトリプルモーター方式の4WDシステムを採用し、当社が得意とするEV技術とSUVノウハウを融合・進化させた車となっています。また、ドライバーの運転を支援するAI（人工知能）技術も搭載しています。同モーターショーではこのほか2018年春に国内での発売を予定している新型コンパクトSUV『エクリプス クロス』（日本仕様）を日本初披露し、一般公開日には『アウトランダーPHEV』をはじめ国内で販売する主力モデルを含めた全12台を出品し、来場者の注目を集めました。

※AYC: Active Yaw Control（左右輪の駆動力配分制御システム）



## 写真で振り返る東京モーターショー



注目を集めた  
『エクリプス クロス』(日本仕様)



車載AIのデモ車両



プレスカンファレンスの様子(登壇者は山下CPL0)

## インドネシア 国際オートショー

## クロスオーバーMPV『エクспанダー』を インドネシアで販売開始

2017年8月のインドネシア国際オートショー<sup>※1</sup>にて初披露したクロスオーバーMPV『エクспанダー』を10月より販売開始しました。『エクспанダー』は当社の強みであるSUVらしいスタイリングと走り、MPV<sup>※2</sup>ならではの居住性と多用途性を融合させた新型車です。現地のお客様から非常に高い評価をいただいております。計画を超える好調なオーダーをいただいております。

現地工場では2直生産体制を前倒して導入しての納車期間の短縮に取り組んでいます。好調な販売が継続している同車は周辺のアセアン地域での販売も計画しており、2018年には輸出を開始する予定です。

※1 正式名称はThe 25th GAIKINDO Indonesia International Auto Show

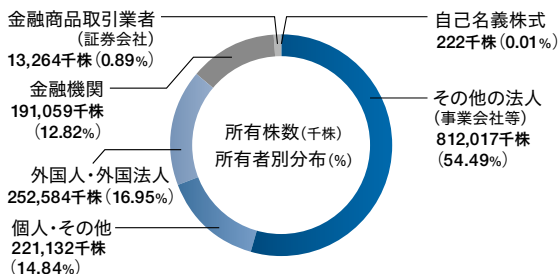
※2 MPV: Multi Purpose Vehicle(多目的車)



## 株式情報 (2017年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,575,000,000株
発行済株式総数	1,490,282,496株
株主数	269,908名

### 所有者別株式分布状況 (2017年9月30日現在)



### 株式手続きのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	毎年6月
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
その他の基準日	上記の他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
公告の方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることのできない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 (公告掲載アドレス) <a href="http://www.mitsubishi-motors.com/jp/investors/stockinfo/koukoku.html">http://www.mitsubishi-motors.com/jp/investors/stockinfo/koukoku.html</a>

### 大株主 (2017年9月30日現在)

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日産自動車株式会社	506,620	33.99
三菱商事株式会社	137,682	9.23
三菱重工業株式会社	124,293	8.34
株式会社三菱東京UFJ銀行	48,717	3.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	32,085	2.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	27,463	1.84
MHIオートモーティブ・キャピタル合同会社 MMC株式運用匿名組合2	23,768	1.59
BNYMSANV AS AGENT / CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	19,205	1.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	14,732	0.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	13,977	0.93

1単元の株式数	100株
証券コード	7211
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先・電話照会先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel: 0120-232-711 (フリーダイヤル)

### 「配当金の口座受取制度」のご案内

配当金を銀行等の預金口座へ入金するお手続きをいただくと、配当金支払開始日に株主様のご指定の口座に振り込まれ、安全・確実に配当金をお受取いただくことができます。配当金を「配当金領収証」でお受取の株主様はこの機会にご検討ください。

### 株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。速やかにお取引の証券会社等へお届出ください。

〈上記お手続き、その他各種お手続きご連絡先〉

1. 証券会社等の口座をご利用の場合→お取引の証券会社にお問い合わせください
2. 「特別口座」に記録されている場合→三菱UFJ信託銀行 (Tel: 0120-232-711) にお問い合わせください

## 会社の概要 (2017年9月30日現在)

社名	三菱自動車工業株式会社
本社	〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号 Tel:03-3456-1111(大代表)
設立	1970年4月22日
従業員数	連結:30,984名 単独:13,617名
資本金	284,382百万円

## 役員 (2017年9月30日現在)

### 取締役

取締役会長(代表取締役)	カルロス ゴーン
取締役(代表取締役) CEO	益子 修
取締役 副社長執行役員(開発、品質担当) CPLO	山下 光彦
取締役 副社長執行役員(海外事業、グローバルアフターセールス担当) CPO	白地 浩三
取締役 副社長執行役員(財務、経理担当) CFO	池谷 光司
取締役(社外取締役)	坂本 春生
取締役(社外取締役)	宮永 俊一
取締役(社外取締役)	小林 健
取締役(社外取締役)	伊佐山 建志
取締役(社外取締役)	川口 均
取締役(社外取締役)	軽部 博

### 監査役

監査役(常勤)	中村 義和
監査役(社外監査役)	永易 克典
監査役(社外監査役)	岩波 利光
監査役(社外監査役)	竹岡 八重子
監査役(社外監査役)	大庭 四志次

注) 1. 取締役 坂本春生氏、宮永俊一氏、小林健氏、伊佐山建志氏、川口均氏、および軽部博氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

2. 監査役 永易克典氏、岩波利光氏、竹岡八重子氏、および大庭四志次氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。



**MITSUBISHI  
MOTORS**

Drive your Ambition

## 株主通信

三菱自動車工業株式会社 平成29年度(2017年度)上半期のご報告

2017年12月発行

〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号

Tel : 03-3456-1111 (大代表) <http://www.mitsubishi-motors.co.jp/>